

東京ジオサイトプロジェクト

受賞機関 国土交通省関東地方整備局東京国道事務所

はじめに

東京の国道の地下を全長106kmにわたって走る、もう一つの道が共同溝である。

この都市を根底から支えるライフラインプロジェクトは、地下にあって見えないため、その存在を意識されることはあまりない。そこで、国土交通省東京国道事務所では、共同溝法制定40年目の平成15年、地底の共同溝工事現場そのものをコミュニケーションとアカウンタビリティの実験場として活用し、その存在と役割に誰もが関心と興味を持たれるような企画を実施した。

事業の概要

開催日：平成15年11月18日（土曜の日）～20日

開催場所：東京都港区虎ノ門1丁目

虎ノ門交差点 共同溝工事現場

プログラム：

(1) 巨大な縦穴を能楽堂にしてみる「地底能楽堂計画」

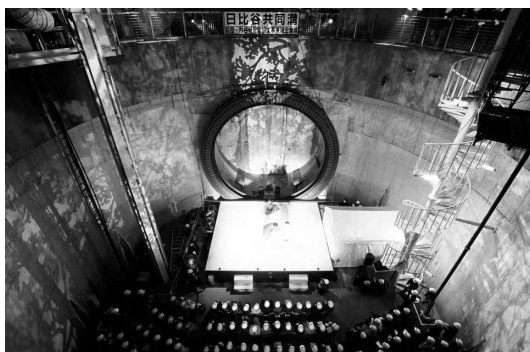
巨大な共同溝の縦穴を能楽堂に見立て、その特殊なコンクリート空間の文化的可能性を追求する。

参加：実験立会招待者100名（抽選による）事業関係者50名

出演：博物学者 荒俣宏、能楽師 宝生英照、
狂言師 野村萬斎

(2) 交差点の下を博物館にしてみる「地底博物館計画」(自由参加)

交差点の地下10mに広がる作業ヤードを博物館の



地底能楽堂計画

ギャラリーに見立て、意外に知らない工事現場で使われる機器や道具を細かく展示解説。

(3) 地底のトンネルを癒しの空間に「やすらぎトンネル計画」(自由参加)

ライフラインが収容される地底トンネルを、キャンドルアートで癒しの空間に変えてみる計画。

(4) 工事現場の塀をメディアにしてみる「フェンスラップ計画」

工事現場のフェンスを一目でわかるメディアに変えてみる計画。



地底博物館計画

事業の成果

東京ジオサイトプロジェクトには、開催期間中の3日間に約1,000名の方々にご来場いただき、その様子はテレビや新聞各紙をはじめ、ラジオや雑誌にも取り上げられた。女性グループの来場者が多かったのも特徴的で、来場者の約半数は女性であった。

公式ホームページ（URL:<http://geo-site.jp/>）へのアクセスは、プロジェクトの実施後も続き、10月から12月までの総ヒット数は110万件を超えた。

会場で実施したアンケート結果では、9割以上の方々に「新しい発見があった。感動した。」と回答いただき、「自分たちの毎日の生活が、このような形で守られていることを知った。」「理想的な「国と納税者の相互理解」の場である。」などの感想も寄せられている。

賛助会員 鹿島建設(株)、(株)熊谷組、東洋建設(株)、前田建設工業(株)